

市長が行く

新年度をスタートして

―市長としての今までのことこれから―

No.147

茂原市長

田中豊彦



4月の統一地方選挙が終わり、茂原でも県議会議員2名（現職1、新人1）が選出され、市政も新年度をスタートしました。私の4期目の任期も残り1年となりました。振り返れば15年前、県議会議員2期目に当選したばかりの翌年に任期半ばで市長選に立候補し、当選してからというもの、さまざまな課題に取り組んできました。中でも、火の車だった財政状況を一日も早く立て直すことを最大の目的に掲げ、問題点を拾い出し、一つずつ痛みを覚悟しながら処理をしてきたことには、自負があります。おかげさまで、今の財政状況は当時の危機的状況からはだいぶ改善されてきましたが、私的にはまだ道半ばのような思いがしております。

人間の心理として、少し健全化が進むと、次に今まで我慢してきたことに取り組みたい気持ちになるようで、私も、3期目の最後の仕事として、新規事業をいろいろと検討していた矢先、あの令和元年の水害が起こりました。あれさえな

ければ、新市民会館の建設に着手できていただろうし、地籍調査や道路改修工事などにも、もう少し積極的な予算を履行できていたかもしれない。しかし、死亡者まで出てしまった災害は、短期に復興させるために多額の財政支出を伴ってしまいました。あの水害からの復興のために、私は4期目の立候補を決めたようなものです。私の仕事はいつもマイナスからのスタート、立て直しばかりの市長人生だと自分でも思います。

そしてそれに続くコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻、円安と相まっての強烈なインフレ、4期目は茂原七夕まつりをはじめとするさまざまな行事が中止になり、コロナのワクチン接種に振り回され、混沌の中にあつという間に過ぎてしまいました。その中でやってこられた事業として、強いて挙げるならば、二度と水害を起さないために、一宮川河川改修を着々と進ませて、少しでも安全・安心なまちづくりを進めてきたことでしょ

か。（桜の景観は失われてしまいました）が、命には代えられません）駅前再開発は、イオンには何度となく店舗の再開をお願いしてきましたが、いまだに前向きな話は出てきません。駅前再開発については、残念ながらここでは言えない、魅力的な案もいろいろあったのですが、実現には至りませんでした。

さて、茂原市には広域の事業も含め、多額の予算を伴う事業がまだいくつも控えています。茂原市（新市民会館建設、地籍調査、一宮川河川改修等）広域（一般廃棄物最終処分場建設、長生病院B棟改築、消防庁舎建設）そしてそれ以外にも、問題は山積しています。残された1年の間に、奇跡的に税収が増えるなどということは夢物語なので、これらをどのように順番を付け、いかにお金を使わないでうまく処理していくことができるかを、市の職員と一緒に知恵を絞って取り組んでいくことが、私の課題であると肝に銘じております。